

四半期報告書

(第45期第3四半期)

自 平成24年4月1日
至 平成24年6月30日

株式会社アサ力理研

福島県郡山市田村町金屋字マセ口47番地

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
2 その他	15
第二部 提出会社の保証会社等の情報	16

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）
【会社名】	株式会社アサカ理研
【英訳名】	Asaka Riken Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 慶太
【本店の所在の場所】	福島県郡山市田村町金屋字マセ口47番地
【電話番号】	024（944）4744
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 鈴木 忍
【最寄りの連絡場所】	福島県郡山市田村町金屋字マセ口47番地
【電話番号】	024（944）4744
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 鈴木 忍
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期連結 累計期間	第45期 第3四半期連結 累計期間	第44期
会計期間	自平成22年10月1日 至平成23年6月30日	自平成23年10月1日 至平成24年6月30日	自平成22年10月1日 至平成23年9月30日
売上高 (千円)	9,008,812	10,436,318	13,077,613
経常利益 (千円)	336,878	105,102	542,684
四半期（当期）純利益 (千円)	77,366	58,061	193,541
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	79,519	63,373	175,443
純資産額 (千円)	1,971,185	2,095,916	2,067,110
総資産額 (千円)	4,959,295	4,610,071	4,963,495
1株当たり四半期（当期）純利益 金額 (円)	31.10	23.34	77.80
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	39.7	45.4	41.6

回次	第44期 第3四半期連結 会計期間	第45期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	22.67	11.48

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高に消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。
4. 第44期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績に関する分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州の財政問題に端を発した世界景気の減速や、円高の長期化の影響から、景気回復の動きが一服し、停滞感が漂う状況となりました。

当社グループの経営成績に大きく影響を及ぼす、電子部品・デバイス工業分野においては、スマートフォンやタブレット端末の普及という追い風はあるものの、円高や世界的な景気減速の影響によって、全体として生産数量が減少し、回復の見通しが立たない状況が続きました。一方、主力製品である金の価格は、調整の動きが続いているものの、円高が一時的にやわらいだこともあり、依然として高値で推移しました。また、銅の価格については、前年度後半からやや軟調な動きとなっておりましたが、当期間においては、第2四半期までは堅調を維持し、足元でやや軟調に推移しました。

このような環境のもと、当社グループでは、年度目標である、新しい市場の開拓、新たな事業基盤となり得る新規事業の構築、生産の効率化や新規事業創出のための技術開発、社内諸制度の変革を通じた経営管理体制の強化に取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結累計期間において、電子部品・デバイス工業分野の生産減少の影響を受けながらも、貴金属価格が高値を維持したことによって、売上高は、10,436,318千円（前年同四半期比15.8%増）となりました。営業利益は、新規事業への先行投資の実施等によって、197,147千円（前年同四半期比38.1%減）となりました。経常利益は、貴金属及び銅の価格変動リスク回避のために行っているデリバティブ取引により、洗い替え等によるデリバティブ評価損74,941千円を計上し、105,102千円（前年同四半期比68.8%減）となりました。これにより、四半期純利益は、58,061千円（前年同四半期比25.0%減）となりました。

各セグメント別の業績は次のとおりです。なお、各セグメントの金額については、セグメント間取引を含んでおります。

(貴金属事業)

当事業の主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、前年同期の水準を下回りましたが、既存の取引先との取引量拡大や新規市場開拓の成果によって、貴金属の販売数量が前年同期実績を上回りました。また、主力製品である金の販売価格は、高値で推移しました。主力製品の販売数量と平均販売価格が、共に前年同期実績を上回ったことから、売上高は、9,646,272千円（前年同四半期比17.7%増）となりました。セグメント利益は、新規事業への先行投資を実施したことと、上述の貴金属に関するデリバティブ取引による評価損を計上したこと等によって、389,705千円（前年同四半期比25.3%減）となりました。

(環境事業)

当事業の主要なお客様が属する電子回路基板業界の生産は、依然足取りが重く、当社の電子回路基板向けエッチング液の販売数量は、前年同期の実績を下回りました。銅ペレットの販売数量は、前年同期の実績を若干上回りましたが、販売価格が前年同期の水準を大幅に下回り、減収要因となりました。一方、新規事業においては、売上を伸ばすことができましたが、減収分を補いきれず、環境事業全体の売上高は、736,433千円（前年同四半期比3.0%減）となりました。セグメント利益は、製品販売価格の低下による売上高の減少に加え、新規事業にかかる販管費の増加等によって、98,489千円（前年同四半期比47.3%減）となりました。

(その他)

その他に含まれるシステム受託開発事業及び運輸事業においては、厳しい事業環境の中での利益確保を目指し、コスト削減等の合理化と顧客満足の向上に継続的に取り組んでまいりました。この結果、その他の売上高は、170,147千円（前年同四半期比2.0%増）となり、セグメント利益は、20,765千円（前年同四半期は62千円のセグメント利益）となりました。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は、以下のとおりであります。

(資産の部)

前連結会計年度末に比べて353,424千円減少し、4,610,071千円となりました。

主な要因は、現金及び預金が189,651千円、受取手形及び売掛金が113,021千円及びたな卸資産が102,825千円減少したことです。

(負債の部)

前連結会計年度末に比べて382,230千円減少し、2,514,154千円となりました。

主な要因は、短期借入金が310,227千円及び買掛金が101,273千円減少したことです。

(純資産の部)

前連結会計年度末に比べて28,806千円増加し、2,095,916千円となりました。

主な要因は、利益剰余金が20,746千円及びその他有価証券評価差額金が5,311千円増加したことです。

(3) 事業上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上の対処すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、71,239千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	10,200,000
計	10,200,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数（株） （平成24年6月30日）	提出日現在発行数（株） （平成24年8月10日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,572,300	2,572,300	大阪証券取引所 JASDAQ （スタンダード）	単元株式数 100株
計	2,572,300	2,572,300	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 （株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金増 減額 （千円）	資本準備金残 高（千円）
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	—	2,572,300	—	504,295	—	339,295

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 84,600	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 2,486,600	24,866	—
単元未満株式	普通株式 1,100	—	—
発行済株式総数	2,572,300	—	—
総株主の議決権	—	24,866	—

② 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
(株)アサカ理研	福島県郡山市田村町金屋字マセ口47番地	84,600	—	84,600	3.29
計	—	84,600	—	84,600	3.29

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年10月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,244,590	1,054,938
受取手形及び売掛金	469,618	356,597
商品及び製品	630,012	642,965
仕掛品	447,728	329,933
原材料及び貯蔵品	12,189	14,207
繰延税金資産	66,403	25,181
その他	128,591	214,511
流動資産合計	2,999,135	2,638,334
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,136,811	1,181,977
減価償却累計額	△607,478	△640,554
建物及び構築物（純額）	529,332	541,422
機械装置及び運搬具	1,714,866	1,828,724
減価償却累計額	△1,443,771	△1,524,606
機械装置及び運搬具（純額）	271,095	304,118
土地	884,321	880,137
リース資産	71,231	71,234
減価償却累計額	△18,085	△28,056
リース資産（純額）	53,146	43,177
建設仮勘定	31,951	6,635
その他	168,509	163,537
減価償却累計額	△145,663	△146,413
その他（純額）	22,846	17,124
有形固定資産合計	1,792,693	1,792,615
無形固定資産	29,259	27,417
投資その他の資産		
投資有価証券	65,369	70,959
繰延税金資産	14,937	11,589
その他	65,468	69,175
貸倒引当金	△3,366	△22
投資その他の資産合計	142,408	151,703
固定資産合計	1,964,360	1,971,736
資産合計	4,963,495	4,610,071

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	242,703	141,429
短期借入金	1,102,367	792,140
1年内償還予定の社債	50,000	50,000
リース債務	13,936	13,621
未払法人税等	73,986	376
災害損失引当金	6,303	—
その他	557,888	441,410
流動負債合計	2,047,185	1,438,978
固定負債		
社債	360,000	490,000
長期借入金	93,314	217,450
リース債務	41,844	31,729
退職給付引当金	76,660	59,271
資産除去債務	46,470	47,096
その他	230,910	229,629
固定負債合計	849,200	1,075,176
負債合計	2,896,385	2,514,154
純資産の部		
株主資本		
資本金	504,295	504,295
資本剰余金	339,295	339,295
利益剰余金	1,252,028	1,272,775
自己株式	△46,400	△46,426
株主資本合計	2,049,219	2,069,940
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,890	23,201
その他の包括利益累計額合計	17,890	23,201
新株予約権	—	2,773
純資産合計	2,067,110	2,095,916
負債純資産合計	4,963,495	4,610,071

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	9,008,812	10,436,318
売上原価	7,815,771	9,220,983
売上総利益	1,193,041	1,215,334
販売費及び一般管理費	874,297	1,018,187
営業利益	318,743	197,147
営業外収益		
受取利息	354	176
受取配当金	1,194	832
受取賃貸料	5,566	6,007
デリバティブ評価益	36,324	—
借入金地金評価益	—	4,422
保険転換差益	—	5,265
その他	4,379	2,086
営業外収益合計	47,819	18,789
営業外費用		
支払利息	19,978	16,170
デリバティブ評価損	—	74,941
借入金地金評価損	3,784	—
その他	5,922	19,722
営業外費用合計	29,684	110,834
経常利益	336,878	105,102
特別利益		
固定資産売却益	2,118	—
特別利益合計	2,118	—
特別損失		
減損損失	34,481	—
災害による損失	38,062	—
災害損失引当金繰入額	29,958	—
固定資産除却損	6,315	976
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	37,271	—
その他	800	—
特別損失合計	146,888	976
税金等調整前四半期純利益	192,108	104,126
法人税、住民税及び事業税	65,861	1,774
法人税等調整額	48,879	44,290
法人税等合計	114,741	46,064
少数株主損益調整前四半期純利益	77,366	58,061
四半期純利益	77,366	58,061

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	77,366	58,061
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,152	5,311
その他の包括利益合計	2,152	5,311
四半期包括利益	79,519	63,373
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	79,519	63,373

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間
(自 平成23年10月1日
至 平成24年6月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
受取手形裏書譲渡高	18,592千円	13,964千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)
減価償却費	127,179千円	134,658千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年12月24日 定時株主総会	普通株式	37,317	15	平成22年9月30日	平成22年12月27日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年12月22日 定時株主総会	普通株式	37,314	15	平成23年9月30日	平成23年12月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	貴金属事業	環境事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,196,961	758,970	8,955,932	52,880	9,008,812
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	67	67	113,849	113,917
計	8,191,961	759,038	8,955,999	166,730	9,122,730
セグメント利益	521,928	186,824	708,752	62	708,814

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム受託開発事業及び運輸事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	708,752
「その他」の区分の利益	62
セグメント間取引消去	△98
全社費用(注)	△371,838
四半期連結損益計算書の経常利益	336,878

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 （注）	合計
	貴金属事業	環境事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,646,272	734,572	10,380,844	55,473	10,436,318
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,861	1,861	114,674	116,535
計	9,646,272	736,433	10,382,706	170,147	10,552,853
セグメント利益	389,705	98,489	488,194	20,765	508,959

（注）「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム受託開発事業及び運輸事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	488,194
「その他」の区分の利益	20,765
全社費用（注）	△403,856
四半期連結損益計算書の経常利益	105,102

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	31円10銭	23円34銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	77,366	58,061
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	77,366	58,061
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,487	2,487
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—————	—————

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月10日

株式会社アサカ理研

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 村山 憲二 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 満山 幸成 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アサカ理研の平成23年10月1日から平成24年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年10月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アサカ理研及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【会社名】	株式会社アサカ理研
【英訳名】	Asaka Riken Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 慶太
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	福島県郡山市田村町金屋字マセ口47番地
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

1【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長山田慶太は、当社の第45期第3四半期（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2【特記事項】

特記すべき事項はありません。